

評価者:

「達成目標」「実施目標」について、下記の基準により2次評価をお願いします。
評価の理由、ご意見などがございましたら、コメント欄にご記入をお願いします。

S	すぐれた成果を挙げている。
A	目標を達成している。
B	目標をほぼ達成している。
C	目標にはほど遠い。 より一層の努力を要する。
D	努力が結果に結びついていない。 方法そのものについて再検討を要する。
F	判定不能

以下記入欄

I 美術を通じた交流を促進する		【集客・交流推進】		
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。 [広報] (22年度) 1次評価 2次評価				
達成目標	・年間観覧者数10万人	A		
・ ・ ・				
実施目標	・広報、パブリシティ活動を通じて、広い層に美術館の魅力をアピールする。	A		
・ ・ ・				
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。 [市民協働] (22年度) 1次評価 2次評価				
達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数のべ1000人 (事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)	A		
・ ・ ・				
実施目標	・ふだん美術館に関心を持たない層を含めた市民が、美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	A		
・ ・ ・				

II 美術に対する理解と親しみを深める

【社会教育】

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。		〔展覧会・教育普及〕	(22年度)	1次評価	2次評価
達成目標	・企画展の満足度(補正值)70%		A		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6本(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 ・大人の知的好奇心を満たし、美術への理解を深めるための教育普及事業を企画・実施する。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。 ・所蔵図書資料を充実させる。 ・多くの人が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。 		A		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。		〔若年層への教育普及〕	(22年度)	1次評価	2次評価
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数15,000人		A		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 		A		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。		〔収集管理〕	(22年度)	1次評価	2次評価
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復を行う。 ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。 		C		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。		〔メンテナンス・来館者サービス〕	(22年度)	1次評価	2次評価
達成目標	・館内アメニティ満足度80% ・スタッフ対応の満足度80%		B		
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・受託事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。		C		
・ ・ ・					
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。		〔バリアフリー〕	(22年度)	1次評価	2次評価
達成目標	・福祉関連事業への参加者数のべ200人		S		
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくり)のための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。		A		
・ ・ ・					
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。		〔経営的視点〕	(22年度)	1次評価	2次評価
達成目標	・美術館全体で年間に使用する電力量を前年比△5%とする。 ・管理事業にかかる年間消耗品費執行額を予算の△10%とする。		—		
実施目標	・職員すべてが費用対効果をつねに意識し、効率的な支出を行う。		B		
・ ・ ・					